

29P-am150

モンゴル産 *Artemisia ordosica* 由来のモノテルペン配糖体 artemisioside の化学構造
○北村 千浪¹, Daaliimaa KHURELBAT¹, 前原 昭次¹, 大橋 一慶¹, 澁谷 博孝¹
(¹福山大薬)

【目的】*Artemisia ordosica* KRASCH. (キク科)は、東アジアの乾燥地帯に広く分布し、その地上部はモンゴル民間薬として喉頭炎、咽頭炎、出血、カタル関節炎の治療に用いられている。今回、我々の薬用植物化学的研究の一環として、モンゴル産 *Artemisia ordosica* KRASCH. 地上部の成分研究を行い、その水抽出エキスから新規モノテルペン配糖体 artemisioside を単離・化学構造決定したので報告する。

【方法・結果】同植物地上部の水抽出エキスを、ジクロロメタン-水で分配しジクロロメタン可溶部(地上部から 4.3%) および水可溶部 (15%)を得た。続いて、ジクロロメタン可溶部をシリカゲルカラムクロマトグラフィーおよび逆相系 HPLC を用いた分離精製を行い、6種の既知化合物 umbelliferone, scopoletin, skimmimin, scopolin, 4-hydroxyacetophenone および 4-O-β-D-glucopyranosyl-2-O-methylphloroacetophenone とともに、新規モノテルペン配糖体 artemisioside を単離した。

Artemisioside の化学構造は、その各種スペクトルデータの解析、及び Klyne 則の適用により、(S)-artemisia alcohol 4-O-β-D-glucopyranoside であることが明らかになった。

